

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月31日

協議会名: 深谷市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
花園観光バス(株)	<p>【R4.10.1～R5.9.30】 北部シャトル便: ①深谷駅北口ー深谷警察署(西)、大寄公民館ー渋沢栄一記念館 ②深谷駅北口ー新井郵便局前、福寿荘前ー新戒(車両減価償却費等国庫補助金申請系統)</p> <p>【R4.10.1～R5.9.30】 南部デマンド</p>	<p>・市民アンケート、公共交通利用者ヒアリング調査の実施</p> <p>・深谷市地域公共交通網形成計画の進行管理</p> <p>・深谷市コミュニティバス「くるりん」再編計画の進行管理</p> <p>・深谷市コミュニティバス「くるりん」デマンドバス再編計画の進行管理</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	<p>【目標1:利用者数の増加】 (目標)72,074人 (実績)44,829人</p> <p>【目標2:利用者満足度の向上】 (目標)利用者アンケートで各項目とも前年度調査以上の満足度 (実績)13項目中、13項目達成</p> <p>【目標3:収支率の向上】 (目標)16.5% (実績)7.9%</p> <p>利用者満足度は全項目で目標を達成できた。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により減少した利用者数は回復が見られているが、今後も感染症対策に配慮した安心・安全なコミュニティバス運行を継続する。</p> <p>また、利用者満足度の上昇については全ての項目で前年度よりも数値が向上しており、一定の成果が出ているものと考えられる。</p> <p>今後も地域における望ましい公共交通ネットワークを示すため、安心・安全なコミュニティバス運行に努めるとともに、利用者満足度の更なる向上を目指し、適宜路線再編やサービスの改善等を実施していく。</p>
深谷タクシー(有)	<p>【R4.10.1～R5.9.30】 北部デマンド 西部デマンド</p>		A 計画どおり事業は適切に実施された。	<p>利用者数及び収支率は共に目標を達成することができなかったが、新型コロナウイルス感染症の影響による利用者の減少は回復しつつあるものと思われる。</p>	

別添1-2

事業実施と地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月31日

協議会名:	深谷市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>深谷市は面積が138.37Km²、人口141,268人(R2国勢調査)で埼玉県北西部に位置し、平坦な地形を呈している。また、市内には広域的な移動手段であるJR高崎線と秩父鉄道の2つの鉄道で計7駅が整備されており、この鉄道と結節する地域間移動の足として、市内に民間路線バスが3路線運行されている。</p> <p>コミュニティバス「くるリン」(定時定路線)は、これらを補完する役割として平成12年度から本格運行し、令和2年4月から現運行を開始している。また、同じくコミュニティバス「くるリン」(デマンドバス)は平成27年4月より運行を開始し、令和4年3月の運行事業者との契約満了に伴い、令和4年4月より新運行体制に再編されたところである。</p> <p>また、平成31年3月には「深谷市地域公共交通網形成計画」を策定し、「市民活動と移動を支える持続可能な公共交通ネットワークの形成」を基本方針として定めた。</p> <p>本計画は令和6年3月に計画期間満了を迎えるため、令和5年度中に新たな計画となる『深谷市地域公共交通計画』を策定する予定となっている。</p> <p>令和4年4月のデマンドバス再編にあたり実施した市民アンケートでは、65歳以上の回答者の約7割が移動手段について将来に不安を感じており、障害者や高齢者等の交通弱者の移動ニーズをとらえ、市民の日常生活を支える交通手段として確保していくことが課題であり、効率的かつ効果的な公共交通ネットワークを構築・維持していくことが重要となる。</p> <p>そこで、鉄道や民間路線バスとコミュニティバス「くるリン」を有効に結節させ、既存の公共交通を維持確保するとともに、交通弱者の足の確保および交通空白地帯の解消を目的として本計画を策定する。</p>

令和5年度 深谷市地域公共交通会議（埼玉県深谷市） （地域内フィーダー系統確保維持事業）

地域の公共交通等の現況・課題

本市では、広域的な移動手段であるJR高崎線と秩父鉄道の2つの鉄道で計7駅が整備されており、この鉄道と結節する地域間移動の足として、市内に民間路線バスが3路線運行されている。コミュニティバス「くるリン」は、これらを補完する役割として平成12年度から本格運行しており、平成31年3月には「深谷市地域公共交通網形成計画」を策定し、「市民活動と移動を支える 持続可能な公共交通ネットワークの形成」を基本方針として定め、その基本方針に基づき令和2年度より定時定路線、令和4年度よりデマンドバスの現運行を開始している。



交通計画の基本的な方針／定性的な目標

今後、さらに進行する人口減少・高齢社会に対応し、高齢者や運転免許を持たない交通弱者の移動手段を確保するため、鉄道及び民間バス路線を維持確保しつつ、これらを補完するコミュニティバスにより交通空白地帯の解消を図り、市民にとって質の高い生活を維持するためにも、都市拠点、地域拠点、交流・連携拠点等を中心に結びとともに、市外への移動も視野に入れて、広域的な結びつきを強化する公共交通のネットワークの形成をめざす。

【目標】

- i) 利用者数の増加 72,074人
- ii) 利用者満足度の上昇 前年度調査以上の満足度
- iii) 収支率の向上 16.5%

目標を達成するために行う事業の今年度実施状況

既存の鉄道路線及び民間路線バスを市内又は市外の地域を結ぶ地域間交通ネットワークとして位置づけ、深谷市全体を広く網羅する交通手段として運行する。更に、民間路線バスを補完し交通空白地帯を解消するため、JR高崎線の深谷駅を中心に定時定路線を4路線運行（内1路線が補助対象）するとともに、市内全域を運行エリアとするデマンドバスを運行している。

アピールポイント

【定時定路線】

- ・定時定路線は深谷駅で相互に乗継ができるようダイヤを編成している。
- ・買い物・通院に利用しやすい運行ルートにするため、市民が日常的に利用する主要な商業施設・医療機関を通る運行ルートにしている。

【デマンドバス】

- ・令和3年8月に策定した『深谷市コミュニティバス「くるリン」デマンドバス再編計画』に基づき、バスの乗り継ぎ減少、乗入れ可能なバス停の追加など、利便性の向上を図っている。
- ・令和5年度よりWEBからの利用予約を開始し、利用者利便性の向上を図っている。

面積	km ²
人口（R5.4.1時点）	141,343 人
15歳未満	16,064 人
65歳以上	42,493 人
高齢化率	30.0 %

交通(網形成)計画の計画期間

令和1(平成31)年4月～
令和6年3月

協議会開催状況

- (令和5事業年度に係るもの)
- ・第1回(5月2日)
令和4年度決算及び
令和5年度歳入歳出予算について
 - ・第2回(6月9日)
地域公共交通確保維持改善計画について
 - ・第4回(8月18日)
第5回(10月2日)
第6回(11月22日)
第7回(12月25日)
地域公共交通計画の策定について

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)

令和6年1月31日

協議会名: 深谷市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通計画策定事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③計画等の策定等に向けた方針
<p>1. 市の現状分析・整理 内容: ①市の現状整理・分析 ②上位計画・関連計画におけるまちづくりの方向性の整理 結果: 適切に実施された。 (令和5年度第5回深谷市地域公共交通会議において審議済)</p> <p>2. 市民・利用者のニーズ把握(市民アンケート・利用者アンケート) 内容: ①市民アンケート調査 ②利用者アンケート調査 結果: 適切に実施された。 (各種アンケートを実施の上、令和5年度第6回会議において審議済)</p> <p>3. 地域公共交通の問題点や課題の整理 内容: 上記1, 2を踏まえ、地域公共交通に係る問題点・課題を抽出し、地域における望ましい公共交通体系、また、その達成のために行う具体事業等について検討を行う。 結果: 適切に実施された。 (令和5年度第7回会議において審議済)</p> <p>4. 地域の公共交通計画(案)のとりまとめ 内容: 上記の検討結果をベースに、持続可能な公共交通網の形成にあたっての問題点や課題を整理し、上位計画や関連計画を踏まえつつ、「深谷市地域公共交通計画」として取りまとめるもの。 結果: 第8回深谷市地域公共交通会議において計画素案取りまとめ予定。 令和6年3月 計画策定予定</p> <p>5. コミュニティバス「くるリン」再編計画の見直し 内容: 上記の検討結果をベースに、現行の再編計画を改定する。 結果: 実施なし。(※入札契約時点で項目削除)</p> <p>6. 協議会開催 内容: 計画策定に向け、調査結果を受けた今後の交通体系のあり方についての議論、関係機関との協議調整等を目的とし、協議会を開催するもの。 結果: 計画案の審議等に係り、これまでに全4回の会議を開催した。 (実施済: 第4回～第7回深谷市地域公共交通会議 実施予定: 第8回～第9回深谷市地域公共交通会議)</p>	A 事業が適切に実施された	令和6年3月に深谷市地域公共交通計画 策定予定

令和5年度 深谷市地域公共交通会議（埼玉県深谷市） （地域公共交通計画策定事業）

公共交通の概況・地域の特徴

本市では、広域的な移動手段であるJR高崎線と秩父鉄道の2つの鉄道で計7駅が整備されており、この鉄道と結節する地域間移動の足として、市内に民間路線バスが3路線運行されている。コミュニティバス「くるリン」は、これらを補完する役割として平成12年度から本格運行しており、平成31年3月には「深谷市地域公共交通網形成計画」を策定し、「市民活動と移動を支える 持続可能な公共交通ネットワークの形成」を基本方針として定め、その基本方針に基づき令和2年度より定時定路線、令和4年度よりデマンドバスの現運行を開始している。

地域の抱える問題点・計画策定調査の必要性

今後、さらに進行する人口減少・高齢社会に対応し、高齢者や運転免許を持たない交通弱者の移動手段を確保するため、鉄道及び民間バス路線を維持確保、またこれらを補完するコミュニティバスにより交通空白地帯の解消を図っていく必要がある。

については、現計画（深谷市地域公共交通網形成計画）の計画目標に基づく評価指標について最終評価・検証を行い、市内全域の公共交通の効果的な運用についての基本方針を反映した地域公共交通計画を新たに策定し、新たな地域公共交通ネットワークの実現に向けた基本方針（あり方）を設定するもの。

アピールポイント

- ・計画策定における市民・利用者ニーズの把握のためのアンケート調査について、通常のアンケート形式だけでなく、より詳細なコミュニティバス利用者の意見を聴くため、利用者に対する車内ヒアリング調査を実施している。
- ・地域公共交通を担う市内の交通事業者（鉄道、路線バス、高速バス、コミュニティバス、タクシー）への事業者アンケート及びヒアリング調査を実施し、市内公共交通全体の課題等を洗い出し、計画内容に反映している。
- ・計画案において、「多様な主体との“共創”による地域公共交通の持続可能性の向上」を課題、また計画目標として位置づけ、地域の多様な主体との共創による持続可能な公共交通のあり方を検討していくこととしている。
- ・計画目標として「新しい技術の導入による利便性の高い地域公共交通を目指す」を位置づけ、令和5年度より実証運行等の取組を進めている自動運転技術の導入をはじめとした、デジタル技術の活用に積極的に努めていくこととしている。



面積	km ²
人口（R5.4.1時点）	141,343 人
15歳未満	16,064 人
65歳以上	42,493 人
高齢化率	30.0 %

協議会開催状況

- （令和5事業年度に係るもの）
- ・第1回（5月2日）
令和4年度決算及び
令和5年度歳入歳出予算について
 - ・第2回（6月9日）
地域公共交通確保維持改善計画について
 - ・第4回（8月18日）
第5回（10月2日）
第6回（11月22日）
第7回（12月25日）
第8回（1月31日）
地域公共交通計画の策定について